

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890700129		
法人名	医療法人社団 中野泌尿器科		
事業所名	グループホーム たかくらの夢		
所在地	神戸市須磨区高倉台4-2-7		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ		
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号		
訪問調査日	平成31年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人であり、医療面での連携が出来る。Dr・NSとは24時間オンコール体制があり、緊急時でも迅速に対応が出来、安心して生活が出来ている。その人らしく暮らして頂けるように一人一人の生活を尊重している。自治会開催の行事には積極的に参加している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・運営推進会議では理事長以下経営幹部及び施設管理者が定例参加し、当施設特性の医療と介護サービス連携堅持を実践している。・各課題に関し職員にて検討し、各支援場面で利用者自主性を前提とした工夫・改善等細やかな対応を実践している。
【工夫点】・運営推進会議開催案内で欠席家族事前に意見を伺う工夫をしている。・居室ベットの通常壁際としているが、離床時立ち上がり補助としてタンス等の手がかりや洗面へのベット柵を手すり補助に転用活用への斜め設置など、利用者の生活への補助の支援工夫が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内・玄関等に掲示したり、全体会議で確認し理解し実践に取り組んでいる	事業所目的、方針を明確にした理念を職員、来訪者の眼につく場所に掲げ又全体会議で理解にもとづく実践等確認し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加(お祭りやふれあい喫茶)施設の行事に地域の方を招き、交流を図っている	地域行事や近隣地域センター開催のふれあい喫茶に利用者と共に活用や施設行事に地域の方を招く等事業所自体が地域の一員として日常的な交流を推進している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験の受け入れを行った		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議において事業報告を行い、話し合いを行っている。参加が出来ない家族様からは事前に意見を聞いている	運営推進会議には理事長(医師)以下管理層参加のもと地域包括担当者、自治会長、同業他社、家族等により定例報告(含事故・ひやりハット)、質疑応答など行い又事前の家族への参加確認で欠席連絡者より事前に意見を得る機会を持ち、3月には評価結果の説明等行いサービス向上に活かしている。	支援員教育の一環として、運営推進会議への参加による当施設運営の状況など直に体験への更なる工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点や不明な事があれば電話で相談している	運営推進会議の包括支援センター参加報告の仕組み以外に運営上の問題点等必要に応じ電話相談している。	電話連絡時や評価結果届出機会を活用し、事業所実情やケアサービス取組み効果例等市担当者に積極的に伝える等の協力関係推進が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催して身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年度研修計画に身体拘束廃止を掲げ研修実施と共に2ヶ月毎に開催の別途身体拘束廃止委員会にて身体拘束廃止へのケアに取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を年2回、実施して防止に努めている。職員同士の会話や声掛けにも注意している	年2回の虐待防止研修を研修計画にもとづき実施し、別途リスクマネジメント委員会におけるひやりハット予防活動とともにスピーチロック等会話時の注意など実践し、防止に努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度のパンフの配布を行っている	現在成年後見制度活用者2名(後見人弁護士)あり、訪問時を活用しての情報収集や、会議等で学ぶ機会を持ち、包括支援センター発行のパンフ等関係者に配布を行っている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学を行っていて、不安や疑問点をお聞きして納得が出来るように説明してから、契約を行っている。契約時にも再度確認を行っている	利用希望者には必ず見学を行い、重度化した場合の不安や疑問点を確認し納得、理解が得られる説明をした上で、契約に臨み、再度重要事項説明書等契約時必要資料をもとに再説明後確認し契約を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族様から意見や要望を聞いたり、運営推進会議時には事前に意見などを記入して頂ける出欠票を配布している	面会時に家族からの意見、要望を確認したり、家族が数名参加の運営推進会議では開催案内で欠席者には意見記載の様式を工夫し、家族の意見、提案を受ける工夫をし、サービスの質の向上に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議時や各フロア会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映出来るように努めている	毎月に全体会議時や各フロア会議時及び年1回の個人面談等やアンケート等工夫し職員意見や提案を聴く機会を設け、反映できるよう推進している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、職員個々の目標などを聞いている、年3回に人事考課表にて実績や勤務状況などの評価を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は全職員に報告し、希望者には法人内外の研修を受ける機会を設けている、職員から研修受講の希望があれば希望に沿っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会、リーダー会議に出席して交流する機会を設けている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時や入居時の面談にて本人が困っている事や不安な事を聞き取り、不安なくサービスが導入できるように関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の問い合わせ時から家族様が困っていることや不安に思っている事を詳しく聞き、対応出来る等に話し合い、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様の会話の中から色々な意見や要望を聞き取り、その時に必要としているサービスを見極め検討し対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で本人が出来る事や出来る事を把握し、共同生活を送れるように支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時などには日々の様子を伝え、家族様の思い出話を聞くなどして共に本人を支えていけるような関係を築いている		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪時には、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮しており、関係が途切れない様に支援している	これまでの地域社会との関りを継続していくために、その関係を把握し地域との接点を持ちながら関係継続させるための支援を大切にしている。お正月やお盆には家族とともに過ごしたりお墓参りをしたり一人ひとりの今までの習慣を尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で利用者同士の関係を把握し、利用者同士が関われるように気を配り支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係性を保ちながら、相談や支援に努めている		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の意思に沿えるように実践している、本人から聞き取りが出来ない時は家族様の希望に沿っている	日々のかかわりの中で、思いや暮らし方の希望、意向等の把握に努めている。利用者の言葉や言葉にしづらい思いを一部の人の意見や考え方で決めつけられてしまうことがないように、どのように暮らし何をしたいのか丁寧に聞き取り共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用時に生活歴や今までの暮らし方などの情報を提供して頂いて、把握に努めている、面会時にも詳しく聞き取るようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康状態や心身状態などは連絡ノートや申し送りなどで職員間で把握している		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心になって意見やアイデアをその都度反映し、現状に応じた介護計画を作成している	利用者の視点にたつてその人らしく暮らし続けるために、本人を良く知る家族や職員等と本人本位で話し合い、意見・要望を反映した介護計画を作成している。職員の気づきを活かしカンファレンスで共有し夜間の排泄改善例等、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきなどは個別ファイルに記入し、職員間で共有し、随時カンファレンスを開催し実践につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応して、柔軟な支援を行えるように支援している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、近くで買い物をしたりと楽しく暮らしているように支援している		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族等の希望をお聞きし、主治医との連携に努めている、体調変化時は主治医と連携し迅速な受診に繋げている	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。一人ひとりの状況を把握し状態変化等は看護師に報告し相談・助言・を得て状態に応じた対応をしている。主治医との連携も密に図り適切な医療につなげる体制が整備されている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中での情報や気づきは看護職に報告、相談し適切な受診に対応出来るように支援している		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は地域連携室と随時連携を行い、情報交換を行い、退院に向けての相談に努めている、病院訪問時は地域連携室にも挨拶を行っている	24時間オンコール体制が整備され夜間急変にも対応ができる。入院時は医療機関に対して本人への支援方法に関する情報等を提供し、なるべく混乱が少ないよう、本人の普段の状況や特徴など伝えている。入院先の地域連携室とは情報交換を日頃から行い関係づくりに務めている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や看取りについて説明している、看取りの時期になった場合は家族・主治医・NS・職員とチームで支援出来ている	重度化に伴う意思確認書を作成し入居時に事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。本人や家族の意向を踏まえ、医師・看護師・職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意思確認しながら取り組んでいる。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、職員全員に研修を行っている、各フロアにも緊急時マニュアルを置いている、AED使用の研修も随時に行っている		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、全職員参加の避難訓練を行っている(地震や夜間帯発生も含む)、避難訓練に地域の方の参加は出来ていない	年2回春は消防署立会、秋は夜勤者は夜間災害、地震想定にて一部家族も参加実施し、消防より指導のベランダへの誘導を実践している。備蓄は3日分常備し、リスト管理もしている。	避難訓練時に周辺は商業地であるが、周辺地域の方たちに関心を持ち、将来的に参加への協力が得られる工夫が期待される。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーに配慮し、本人が不快な思いをしないような声掛けを行うように対応している	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的に確認を行い、人前であからさまに介護したり、声掛けなどさりげない言葉かけや対応で配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の希望を気軽に表したり、自己決定が出来るように日頃より信頼関係を築いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の毎日の自分のペースを尊重し、その人に合った生活が送れるようにその都度、希望を聞いて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理美容で本人希望の髪型にカットしている、洋服などは家族様と相談し支援している		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事。片づけを行っている。希望により、おやつレクや食事レクも行っている	利用者の中には、見守りや支えがあれば力を発揮できることがたくさんある。利用者個々の力を活かし職員と一緒に行うことで前向きな意思や気持ちを大切にしている。食事レクは希望をきき焼きそば、お好み焼き、外食ではお寿司を食べに行く。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量を記録し観察を行っている。食事量や水分量の低下が見られた時は職員間で情報共有をして、必要があれば主治医・NSに報告相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、確認を行っている。週1回、訪問歯科にて口腔ケアチェックや本人の状態に合わせた口腔ケアの指導を受けている		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を心掛けている	トイレでの排泄を可能にするため、一人ひとりのサインを把握し本人の生活リズムにそった支援を行っている。排泄チェック表を使用し、あからさまな誘導ではなく、さりげない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便状況の確認を行っている、腹部マッサージや個人の飲食物の購入などで個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望時間に合わせて入浴を行っている、入浴拒否の強い方は工夫して入浴を実施している	入浴を拒む人に対しては、言葉がけや対応など工夫し、そのことを職員全員が理解し、湯に入る事の不安感や抵抗感を軽減し、心情を察した支援を行っている。週2回は入浴。職員が一方的に決めず夕方に入る方など個々添う支援で取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣やその日の体調などに応じて休息が取れるように支援している、不安時も傾聴し安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬剤情報は個別にファイルしており、確認できるようにしている、個々に合わせた服用を支援している、症状に変化がある時は主治医・NSに報告相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力を活かした役割を持って頂けるように支援し、行事に参加して頂き季節感を感じて頂けるように支援している		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の公園やスーパーなどへの外出は支援出来ている、家族様と一緒に外出時は協力が出来ている	利用者が事業所内だけで過ごさず、日常的に外出できるよう個別に支援している。一人ひとりの楽しみに合わせ近隣の公園への散歩やスーパーへの買い物。お花見や遠足も計画している。お正月には町内のお店でおせちを取り寄せるなど地域とのつながりをとっても大切にしている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお財布を持っておられる方は買い物に出掛けて好きな物を購入出来るように支援している 財布を持っていない方は事業所の立て替えにて好きなものを購入出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から要望があれば家族様に電話連絡を行っている、手紙のやり取りが出来るように支援している		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活が出来るように不快感や混乱がないように配慮し、季節の制作物を飾ったりして季節感を感じて頂き居心地良く過ごせるようにしている	共用の空間は、安心して生活ができるよう過度な飾りつけや混乱を招かないような刺激をさける配慮にて利用者の自主性を活かした飾りつけや季節感を感じ居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の気分に合わせて一人で過ごしたり、利用者同士が楽しく過ごせる事が出来るように職員が日々、工夫している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れた物や馴染みの物を取り入れて居心地良く過ごせるように随時、検討している	居室は本人や家族と相談し、仏壇やクリスマスの方にはマリア像等使い馴れた好みのものを持ち込み居心地良く過ごせる工夫や歩行困難者にはベットを斜めに置きタンスや洗面への立ち上がり補助活用など工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・フロア内には手すりが設置して、安全に歩行が出来るように工夫されている、トイレや浴室などにもわかりやすいように表示がされている		